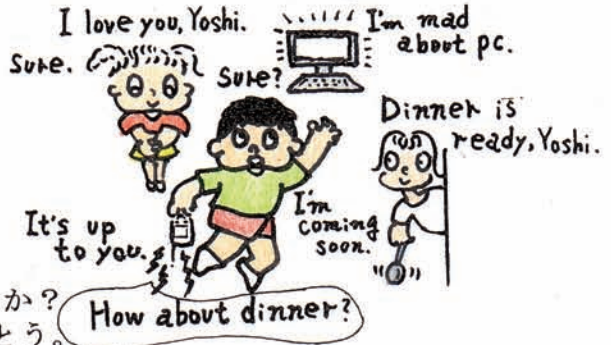


# 英語を楽しく

3, September



## ☆ 短くてすご〜く役に立ちそうな言葉

- |                     |              |
|---------------------|--------------|
| ① I'm coming soon.  | すぐに行きます。     |
| ② It's up to you.   | おまかせするよ。     |
| ③ How about dinner. | 夕食でもどうですか？   |
| ④ Sure? Sure.       | ほんとう？ ほんとう。  |
| ⑤ I'm mad about pc. | コンピュータに夢中です。 |

☆ 「言葉は生きている」とよく言われますが、話す相手によって言い方をし、目上の人には丁寧な言葉を使いますね。英語でも、

- |                     |   |
|---------------------|---|
| ① Why don't you ~ ? | このような 文頭から始まる文を一般的に丁寧な文章とされますが、これだけではありません。「文章の一部を省略しない。」ことも丁寧な文章とされます。 |
| ② Wouldn't you ~ ?  |   |
| ③ Would you ~ ?     |   |
| ④ Won't you ~ ?     |   |
| ⑤ Will you ~ ?      |   |
| ⑥ Please ~.         |   |

例えば 次の二つの文を比べて見ましょう。

- A I'm sure that your son will pass the test.  
 B I'm sure your son will pass the test.

A には **that** があり、B にはない、と言うだけです。ではどう違うかというと Aの方が丁寧でかしこまった言い方で、「あなたの息子さんは、きっと試験に合格しますよ。」の意を含んでいます。Bは「きみの息子さん、きっと試験に合格するよ。」の意で話された人と A,B 二人の関係では、Bの方がAよりも親密であることがわかります。このことから言えることは、「文章の中で、あってもなくてもいい言葉なんて存在しない、どの言葉もそれぞれの意味を持っている。」と言うことですね。

## ☆ to + 動詞 と 動詞 + ing のちがいは 未来 と 過去 !

to + 動詞 は 未来のことを言い表す

I remember to open the window.  
 わたしは まどを開けることを覚えている。  
 (これから開ける = 未来の話)

動詞 + ing は すでに過去になったことを言い表す

I remember opening the window.  
 わたしは まどを開けたのを覚えている。  
 (すでに開けた = 過去の話)

